

行政視察報告書

令和3年9月17日

視察委員会名	教育民生委員会		
報告書作成者	副委員長 中島 雅代		
出席者氏名	委員長 森 美和子 副委員長 中島 雅代		
	委員 森 英之 岡本 公秀 櫻井 清蔵		
欠席者氏名	服部 孝規		
所管職員氏名	生活文化部長 青木 正彦 環境課長 村田 博	随行職員氏名	議会事務局 大泉 明彦 西口 幸伸

視察日	視察先	視察目的
8月25日	四日市市クリーンセンター（オンラインによる視察）	四日市市クリーンセンターの概要について ・本焼却施設を選択したメリット・デメリット ・人口規模のスケールメリットを活かした処理経費の削減 ・将来のごみ処理に係る考え方について 等

【四日市市クリーンセンターの概要】

四日市市では、老朽化した北部清掃工場に替わる新施設として平成28年4月から本市と同様にシャフト式ガス化溶融炉を稼働させている。焼却施設の処理能力は、1日当たり336トン（3炉）、発電能力9000キロワット（蒸気タービン発電）である。

【本焼却施設を選択したメリット・デメリット】

四日市市はガス化溶融炉を選択しているが、メリットとしては溶融処理を行うことで廃棄物の無害化・資源化をすることができ、自治体として一般廃棄物の処理責任を全うすることができること、プラスチックごみを可燃ごみにすることで市民の分別の負担を軽減することができること、焼却灰の溶融をしてメタルを取出し資源化を図れることであり、デメリットとしてはコークスを利用することでCO₂の排出量が増えることである。

また、将来のごみ処理に係る課題として、CO₂の排出量を抑えるという国の方針に対して今後どのように対応していくかということがあるとともに、施設の老朽化を見据えて、メンテナンスコストができる限り低減できるように事業者と検討している段階である。

【長期包括契約について】

次に、契約方法については、長期包括契約としており、施設の建設からごみ処理、運営、施設の維持管理まで20年契約で全て委託することで、責任の所在が明らかになるので長期に安定した運営が可能である。しかし、20年後に入札をする段階でこちらが想定したごみ処理量と実際の排出量がかい離することがあり、事業者との調整・協議が必要となる。

【ごみ処理経費の違いについて】

次に、亀山市と四日市市では比較すると一人当たりのごみ処理経費に違いがあり、四日市市の方が安価であるが、この要因は、四日市市は長期包括契約により毎年の支出がほぼ固定されていることである。亀山市の平成12年建設の施設と四日市市の新型のガス化溶融炉ではコンピューター制御などの面でかなり仕組みに違いがあり、燃料消費に影響していることも要因である。また、資源物の処理に関しても、亀山市は総合環境センターで職員が分別し専門業者へ売却処理をしているが、四日市市の場合は市民の持ち込んだ資源物をそのままクリーンセンターに置いておくだけで、委託している資源物のリサイクル業者が処理するため、クリーンセンターの処理経費に含まれていないことも影響している。さらに、亀山市とは発電するタービンの能力に違いがあり、四日市市では令和2年度で年間6億円を超える売電収入があるので、発電効率も一つの要因と思われる。

【所感】

施設更新においては、亀山市と四日市市を比較すると溶融炉の性能や委託による運営などの違いにより、一人当たりの処理経費が大幅に削減できる可能性があり、今後の検討事項と考える。

ごみ袋の有料化については、有料化に踏み切るには、個別収集等さらなる市民サービスも求められることが考えられるので、四日市市は慎重であり、行政サービスと市民の意識向上のバランスを取ることの難しさを感じた。

シャフト炉式ガス化溶融炉により、市民負担が軽減された反面、なんでも燃やすことができることに慣れてしまった市民のごみ削減に対する意識を高めるため、市全体での議論が必要である。

将来のごみ処理問題を考えるに当たっては、SDGs やパリ協定など国際的な動向、カーボンニュートラルに向けての国の動向、新たなプラスチック資源循環促進法の成立など様々な動きを見据えていく必要がある。